

## 〔編集後記〕

今回お届けする第39巻には本年度開催された研究会の講演内容を題材とした論文2編、農林水産省指定試験関係2編に作物試験成績1篇の5編で内容は多岐にわたっている。

まず、伊藤氏の「アフリカサバンナにおける農業開発研究」は、当研究所で初めて海外の土壤肥料研究を取り上げたもので、研究会への参加者について懸念されたが、多数の参加者があり活発に議論された。講演内容はアフリカサバンナの天水地帯における農業開発研究事例であり、わが国の研究成果を活用して解析されている。

松永氏には、当所の研究会で「土壤の有機態窒素の分子実体を巡って」と題して講演していただいたが、有機態窒素の主体はタンパク質であるが、その存在形態や分解抵抗性については未解明であり、松永氏の研究も途上であるということで、本題については後日の執筆に期待するとしたが、この課題と関連して講演されたわが国の土壤有機物研究の先駆者である鈴木重禮の研究軌跡を追って「鈴木重禮と土壤有機物中のタンパク質」としてまとめていただいた。多数の史料を蒐集活用して土壤肥料の大先輩の方々の動静も活写されている。因みに、当所の蔵書検索システムは未完成であるが、引用文献に掲載されている鈴木重禮「土壤生成論」を探すことができた。

長野間氏には、所謂指定試験について「土壤肥料指定試験の始まりから終了まで」と題して、土壤肥料関係の指定試験の軌跡について取りまとめていただいた。これを紐解けば指定試験の変遷と重要性について一目瞭然であり、土壤肥料関係者の重要文献となるでしょう。

久津那氏の「農林省指定試験追想」は、長野間論文執筆依頼の契機となったものであり、大変ありがたく掲載させていただいた。

「ブルーベリーの鉄欠乏調査の思い出」は、筆者からの強い要望により掲載したものである。

〔尾和尚人 記〕